

# 山形県スポーツ推進計画<後期改定計画> 施策実績と今後の対応

基本方針	令和2年度取組状況	H30→R4 施策目標 評価・検証	今後の対応
<p><b>1</b></p> <p>生涯を通して楽しめるスポーツ活動の推進</p>	<p>1-1 ライフステージに応じて楽しめるスポーツ機会の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>総合型地域スポーツクラブと市町村などとの連携                     <ul style="list-style-type: none"> <li>▶県スポーツ・レクリエーション祭の開催(コロナの影響で中止や規模縮小の対応あり)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>競技会部門:11 競技 1,107 人 交流会部門:1地区 54 人</li> </ul> </li> <li>▶市町村の高齢者介護予防事業を受託しての運動プログラムの提供                             <ul style="list-style-type: none"> <li>受託クラブ数:県内 20 クラブ (内訳:村山5、最上5、置賜7、庄内3)</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>障がい者と健常者の交流の促進                     <ul style="list-style-type: none"> <li>▶県スポーツ・レクリエーション祭競技会部門に「ボッチャ競技」を新設                             <ul style="list-style-type: none"> <li>参加者:66 人(うち、障がい者 48 人)</li> </ul> </li> </ul> </li> </ul> <p>1-2 学校の体育・運動部活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒がスポーツをする楽しさを味わえる体育授業等の提供                     <ul style="list-style-type: none"> <li>▶コロナの影響で、教職員を対象とした各種研修会は中止となり資料提供とした</li> </ul> </li> <li>運動部活動における生徒に望ましいスポーツ環境の構築と教員の働き方改革の実践                     <ul style="list-style-type: none"> <li>▶部活動の指導を補完する部活動指導員の配置(中学校 95 校 104 人、高校4校4人配置)</li> <li>▶生徒にとって望ましいスポーツ環境の構築を目指した「運動部活動と地域等の連携の在り方に関する検討委員会」の開催</li> </ul> </li> </ul> <p>1-3 スポーツに関わる人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナの影響で、スポーツ指導者やスポーツ推進委員の講習会等は中止</li> </ul>	<p>成人のスポーツ実施率(週1回以上):60% ⇒ 未実施 (県政アンケート調査の対象外となったため)</p> <p>&lt;参考:令和元年度&gt; 週1回以上:39.5%(H28:35.2%) 週3回以上:20.0%(H28:16.7%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成人のスポーツ実施率を上昇させるためには、各年代の生活スタイルに応じたスポーツ機会の充実が必要。</li> <li>・スポーツ実施率の低い、女性やビジネスパーソンを対象とする事業の検討が必要。</li> </ul> <p>子ども(小学生)のスポーツ実施率(1日60分以上):60% ⇒ 未実施 (コロナの影響で、全国体力・運動能力、運動習慣等調査は中止)</p> <p>&lt;参考:令和元年度&gt; 小学生:40.1% (男子:50.4%、女子:29.4%) (全国 小学生:41.0% 男子:51.5%、女子 30.1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての子どもが楽しい、おもしろいと思うような指導が必要。 「YAMAGATAドリームキッズ」育成プログラムの体育授業での活用 体育の授業が楽しい児童生徒の割合:8割超 (小男 94.7%、小女 91.8%、中男 90.3%、中女 84.8%)</li> <li>・地域や関係団体との連携による運動部活動の充実 「リーダーバンクやまがた」の登録者を増やし、部活動指導員の配置を進める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポレク祭では、老若男女が参加しやすい新規競技の追加、交流会の開催を検討する。</li> <li>・小学校低学年における体育授業の改善を目指し、児童の発達段階に応じた研修への参加を促す。 また、各学校の児童生徒の実態に応じた体力向上の取組「1学校1取組」の充実を図ることで、「体育授業が楽しい」「運動やスポーツをもっとしたい」と思う児童を増加させ、子どものスポーツ実施率向上につなげる。</li> <li>・国の事業を活用し、R3~4の2年間で中学校における休日の部活動を、段階的に地域移行していくことについて、実践研究を実施する。</li> <li>・中学、高校に対し、外部指導者に関する調査を実施し、各校のニーズを踏まえた指導者登録を行う。</li> </ul>
<p><b>2</b></p> <p>トップアスリート育成に向けた支援・強化策の確立</p>	<p>2-1 メダリスト育成への支援・強化策の確立</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2020年東京オリンピック・パラリンピック(開催が1年延期)でのメダル獲得に向けた有望選手への支援                     <ul style="list-style-type: none"> <li>▶オリンピックメダリスト育成事業(重点集中強化11人)</li> <li>▶パラリンピック等メダリスト育成事業(強化指定選手7人)</li> <li>▶県の選手・指導者へのスポーツ医・科学的サポートの拠点となる「マルチサポートセンター」はコロナの影響で活動停止</li> </ul> </li> </ul> <p>2-2 ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の充実・強化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「YAMAGATAドリームキッズ」の発掘・育成(R2年度在籍149人)</li> <li>・国体やインターハイ、国際大会等で活躍する選手の強化                     <ul style="list-style-type: none"> <li>▶コロナの影響で、各種大会が中止となるなか、高体連・中体連では代替大会が開催された。</li> </ul> </li> </ul> <p>2-3 スポーツにおける誠実性・健全性・高潔性(インテグリティ)の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ団体のガバナンス強化やドーピング防止活動の実施                     <ul style="list-style-type: none"> <li>▶競技団体コーチングスタッフ会議等での指導</li> </ul> </li> </ul>	<p>メダリストの輩出 ⇒ △2020→2021年対象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有望選手と競技団体への重点的かつ集中的強化の継続が必要。 オリンピック出場決定:ボクシング競技 岡澤 セオン選手 パラリンピック出場決定:水泳競技 東海林 大選手 テコンドー競技 太田 渉子選手</li> </ul> <p>国体の天皇杯順位:全国20位台 ⇒ 開催中止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成年及び団体種目の強化が課題</li> </ul> <p>インターハイ入賞数:夏季40以上 ⇒ 開催中止</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校間、校種間の垣根を越えて、小学生から中長期的な強化策の検討が必要</li> </ul> <p>※山形県スポーツタレント発掘事業のトップアスリート輩出(R3.1.21現在) 年代別日本代表選手:11人、JOCエリートアカデミー生:4人 国民体育大会出場選手…延べ45人、入賞17種目(うち優勝3種目) 全国高等学校総合体育大会出場選手…延べ68人、入賞24種目 プロ野球ドラフト会議における指名選手…1人</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メダリスト輩出に向けて、遠征や練習環境を整えるための支援を継続する。</li> <li>・スポーツ医・科学的支援を活用し、更なる競技力向上を図る。</li> <li>・競技団体・企業との連携を図り、成年及び団体種目での国体出場権獲得のための直前強化などを充実する。</li> <li>・県高体連、中体連と連携し、複数校での合同強化練習等の選手育成・強化を図る。</li> <li>・山形県スポーツタレント発掘事業における発掘・育成プログラムの充実を図り、全国大会及び国際大会等で活躍するトップアスリートを輩出する。</li> </ul>
<p><b>3</b></p> <p>スポーツを通じた活力ある地域社会の実現</p>	<p>3-1 スポーツツーリズムの展開等による地域の賑わいづくりの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロスポーツチーム等への活動支援と有効活用                     <ul style="list-style-type: none"> <li>▶コロナにより減少したスポーツ観戦機会の盛り返しのために「やまがたプロスポーツ応援キャンペーン」を実施した。</li> </ul> </li> <li>・東京2020オリパラ大会の機運醸成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>▶コロナにより人の往来を伴う交流は実施できなかったが、ビデオレターやオンラインによる相互交流など市町村において工夫を凝らした交流が実施された。</li> </ul> </li> </ul> <p>3-2 スポーツ施設等の整備と有効活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内に唯一の競技スポーツ施設への整備支援(新規:西川町カヌー競技場)</li> </ul> <p>3-3 アスリートの県内定着・回帰及び活躍の場の拡充</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都道府県や人材派遣企業から情報収集し、本県の事業展開を検討</li> </ul>	<p>ホストタウン交流事業への参加者数:8,000人(H32) ⇒ ○達成 参加者数:令和元年度 42,310人 (ホストタウン登録団体:12市2町(相手国15か国))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手国の選手・関係者との交流会や各ホストタウン自治体による交流活動のPR等を通して、相手国への理解や対象競技への理解が深まった。 大会終了後も交流を継続させていくことが必要</li> </ul> <p>※東京2020オリンピック聖火リレーのグループプランナーとして「YAMAGATAドリームキッズ」の10名が選出されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プロスポーツチーム等の活動を支援するとともに、チーム等と連携しての観戦機会や選手との交流機会を一層創出する。</li> <li>・東京2020オリパラ大会の開催に向けて、聖火リレーやホストタウン自治体の交流活動PR等を通して、県内の気運を高めていく。</li> <li>・アスリートや企業の課題を整理し、アスリートの県内回帰・定着の事業の具体化に取り組む。</li> </ul>